

気候変動の適応策について

本日、議論いただくテーマ

水害対策

熱中症対策

水害対策

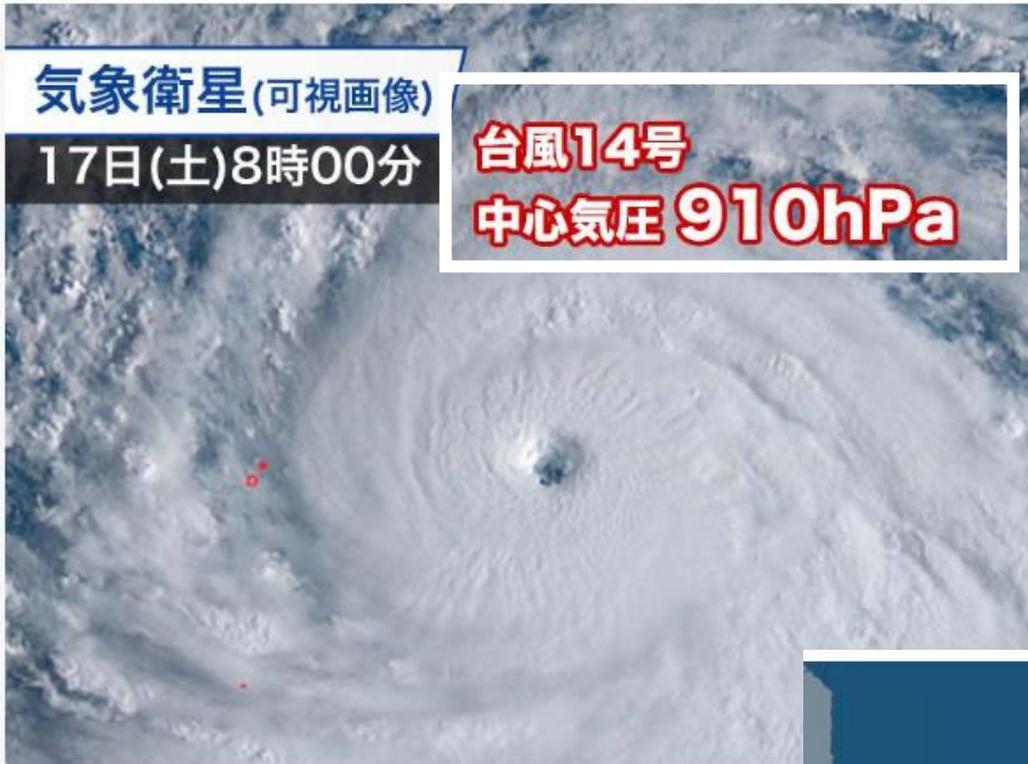
今年も
猛烈な台風が発生

気象衛星(可視画像)

17日(土)8時00分

台風14号

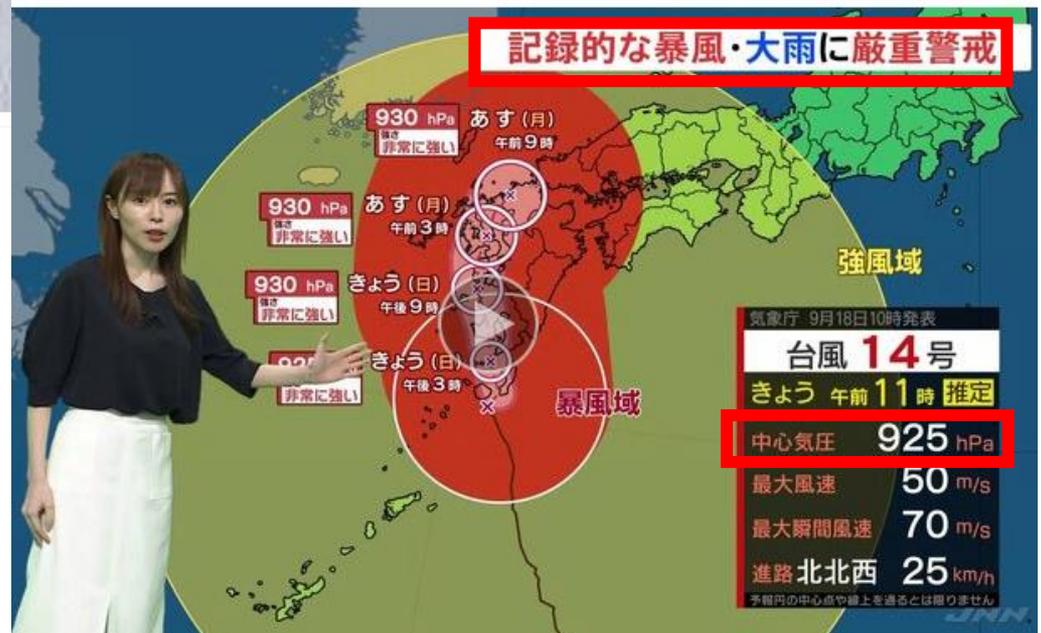
中心気圧 **910hPa**



鹿児島上陸時の
台風の中心気圧は
925hPa

伊勢湾台風よりも
中心気圧が低い

記録的な暴風・大雨に厳重警戒



災害の激甚化はすでに始まっていて、今後もっと進行する可能性がある。

すでに「バケツをひっくり返したような雨」が増えている

- 1時間30mm以上の降水の発生頻度が増加傾向。

出所：東京管区気象台 令和4年3月「東京都の気候変動」



道路が川のようになる



傘をさしていても濡れる

図出所：気象庁

今後は「滝のように降る雨」も増える可能性がある

- 1時間50mm以上の降水（現在の江戸川区では年に1度あるかどうかの激しい雨）の発生頻度が

- 気温2℃上昇で1.6倍に増加
- 気温4℃上昇で2.3倍に増加 との試算。

出所：文部科学省及び気象庁「日本の気候変動2020」を基に株式会社三菱総合研究所作成



水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる



傘は全く役に立たない

図出所：気象庁

すでに「勢力を増した台風」が発生している

- 令和元年東日本台風では、荒川の洪水で新中川以西で浸水可能性があり、避難勧告発令。
- 温暖化で総降水量が増加したという評価もあり。



105か所の避難所に約3万5000人が避難

今後は「さらに勢力を増した台風」も発生する可能性がある

- 試算によると令和元年東日本台風と同等の台風が発生した場合の河川の最大流量を比べると
- 気温2℃上昇で平均15%増加
- 気温4℃上昇で平均29%増加 との試算。



出所：環境省 令和3年7月「気候変動による災害激甚化に関する影響評価（中間報告）について」

雨



台風



洪水や高潮が発生すると、江戸川区は**浸水しやすい**。

大河川の**最下流**に位置する江戸川区には
関東地方の雨の大半が流れ込む



図出所：江戸川区 水害ハザードマップ



図出所：江戸川区 水害ハザードマップ



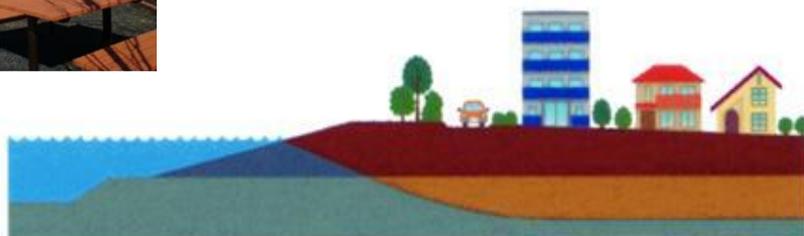
図出所：国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所「洪水浸水状況 (イメージ)」

ゼロメートル地帯の多い江戸川区は
ほとんどの地域で**浸水リスク大**

水害対策としての適応策



公園下貯留施設



雨水貯留槽・高規格堤防などの整備



水害ハザードマップ



情報収集



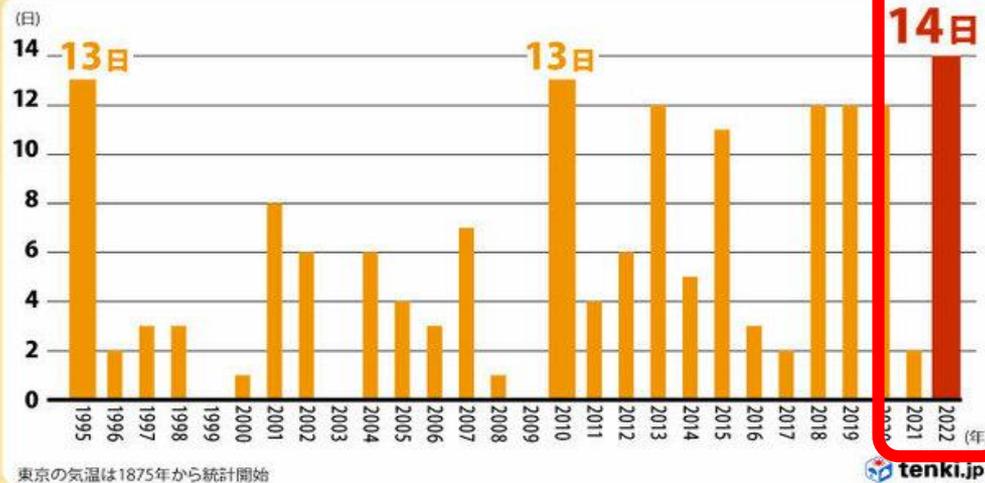
備蓄品の確認

熱中症対策

夏の猛暑日 最多更新!!

東京都心の猛暑日(最高気温35度以上) 日数

2022年 最多記録更新



江戸川区 熱中症搬送件数

(6~8月)

156人



R 3

33%増

208人



R 4

熱中症搬送者も増加

東京消防庁調べ

熱中症対策として適応策



冷房の適切利用



木陰や
日焼け防止グッズの利用



こまめな水分補給

【参考】地球温暖化によって**気温が上がる**と、**激しい災害**が起こりやすくなる。



気温が上昇すると・・・



激しい雨が発生しやすくなる

- 気温の上昇で、空気に蓄えられる水蒸気量が増え、一度に降る雨の「量」が増加する。



台風が発達しやすくなる

- 気温や海面水温の上昇で、海水由来の大気中の水蒸気量（=台風のエネルギー源）が増え、より強力な台風が生まれやすくなる。



大きな高潮が発生しやすくなる

- 台風等の低気圧の強力化や、海面水位上昇で、大きな高潮が発生しやすくなる。

